

2022年5月1日

幼保連携型認定こども園 **西神戸 YMCA 保育園 5月えんだより**

「子どもたちを わたしのところに来させなさい」

(マルコによる福音書 10 章 13 節～16 節)

今年の春は、桜の花をゆっくりと見ることができている程良い天気が続きました。子ども達は、一人一人違ったペースですが、新しい生活やクラスに少しずつ慣れてきており、園舎の中では、子ども達の声がひびきわたっています。子どもの声は、笑い声も泣き声も、聞くこちらの側に元気を与えてくれます。そんな日々を送れることを感謝します。

イエス・キリストも子ども達が大好きでした。良い子であれば愛すとか、何かができるようになったら愛すという「条件付きの愛」ではなく、神様の愛は、存在の全てありのままに受け入れて、愛してくださる「無条件の愛」なのです。ともすれば、私達は、何かができること、できるようになることに価値を置いて、それがあたかも人間の価値のように捉えてしまうことがあることを否めません。神様はそのような考え方を退け、「子ども達を私のところへ来させなさい」と、全ての子ども達を抱き上げ、祈ってくださるのです。一人一人に個性があり、長所や短所があり、できることやできないことが色々あります。しかし、「どんな人も神様に愛されている」ことが実感できるようになることを神様ご自身が願っておられます。

ドイツの教育者で幼児教育の祖であるフレーベルは、子どもの命の偉大さと子どもの自由な成長が保障されることを、今月の聖句から学びました。子どもを教え、可愛がる対象としてではなく、愛し、敬意を払う対象として、大人は子ども達から学ぼうと言われました。「主よ、この謙虚さ、誠実さ、信仰心を私たちにも与えてください。」と。

今でこそ、子どもは大切にされる存在ですが、イエスの時代は、子どもは最も弱く、小さな存在とされていました。だからこそイエスは、子ども達がそばに来ることを歓迎なさいました。子どもは、知識や経験、体力や能力では大人に及ばないかもしれませんが、逆に大人が失ってしまったもの、無くしかけているものを持っています。子どもだからこそあるし、子どもでなければできない事と時がたくさんあります。大人はそれを潰してはいけません。「子ども達を来させなさい」というイエスの言葉は、ある翻訳は「子どもたちを解放させよ」と訳しています。世界に目を向ければ、戦禍に遭遇し、心身が傷ついている子ども達がいいます。貧困、虐待、飢餓・・・そんな世界に向けて、イエス様の「子どもたちを解放させよ」という言葉は、今も考えなければならぬ事であると感じるのです。

年主題 「つながって」～今、わたしを生きる～

5月	乳児 (0,1,2 歳児)	幼児 (3,4,5 歳児)
月主題	なんだろう	感じる
月の願い	<ul style="list-style-type: none"> <li>* まわりに目を向け、手をのばす</li> <li>* 園生活や保育者に慣れ、安心して過ごす</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 聖書の話や讃美歌に親しむ</li> <li>* まわりの人々、社会、世界の出来事にも目を向けて恵みを分かち合う</li> <li>* 友だちや遊びの中で心を動かし、自ら関わろうとして一歩ふみ出す</li> </ul>
讃美歌	ことりたちは こども改 10	このはなのように こども改 115